明治二十一年六月二日出版

(無定價)

婦人衛生會雜誌

第參號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

○本會雜誌第一號請求者夥しきを以て今般新に申込百名を越ゆれば再版し相當の代價を以て配布すべし

○本會改正規則幷に雜誌號外附錄として配布す但し號外は雜誌發兌の月を除き每月印刷し常會の際開場にて配布するものなれども欠席會員には雜誌發兌每に附錄として送に呈す

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌
明治二十一年六月二日發兌

○小供の精神及び保護法（其二）　榊　俶述　佃與二郎筆記

左は一月廿二日本會演説會にて演述ありたるものゝ續きなり。

三歳位にもなりますれば色々の遊びが出升女の御子さんなれば其時分に一番歡ぶのが奇麗の衣服や人形です奇麗の衣物が欲しひ人形が欲しひと云ふ情は世界中皆同じとでありますから某學者は説を爲して赤子の中から女の子と云ふものは子供を持たなければならぬ性質の者であるなどと申します今人形と球とあれば女の子は人形を取り男の子は球を取り升詰り是れは天性であります三歳以上にもなつて遊びの初めは泥こねでありますが外に出れば自分の持て居る玩弄物を棄てゝ直に砂をかき集めて羽子板あり何なりを援けに取て泥を集め升日本の小供も獨逸の小供も其邊は同じとです庭樣の者を拵へたり山を積だり壞したり大きうしたり小さうしたり色々の形を拵へる後には形だけで面白くなくなると禁徽を植るとか杉の栞を植るとかして十分の運動をも致しますそれ故に何國にても耕作と云ふとは樂みて作るのと食物に作るのとありますが詰り開化も爰に基するので野蠻人民が進み行くと何も異る所はありません扨て此事はさき升して次に覺ゆるのが音樂です「チンチコヨー」とか申しますと大層に歡びませう勢ひの宜しい歌を唱へば小供が踊り出します併し日本の歌は兎角寢い歌ばかりですが西洋のは大層勢ひが宜しく御座り升ソレ故自然活潑になり運動にもなり升又小供は歌ばかりでなく音樂をも好み升マア一寸日本の小供衆も太神樂が來れば跟を追ふて歡び門附が來ればベンくが來たからとて飛出します併し文句の巧拙に感ずるのではなくして音調を愛ずる一般の心から出るのですから成べくは活潑なる音勇氣ある歌を聞か

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

せる樣に注意しなければなりません。
又御子樣方に固有の性質があります即ち一人で遊ぶとが出きません初めは一人でも遊んで居りませうが友達が欲しくなつて自ら求めるに至り升が是れは人間社會で一己立つとの出きぬと云ふ一つの證據になつて居り升ソコデお友達が出きれば其仲よく互に遊んで居時是れは何ですと云ふのが初めです「是れは何ですみーちやん是れなに」と終始問答をして居り升是れは日本ばかりでは無く獨逸でも其通りで私の下宿屋に居ました小供はオンケル〳〵叔父さん〳〵と云ひワスイストダス〳〵是れは何ですと云ふて始終タズ子升た年が長じますと負吝みが次第に強くありますから聞て見樣と云ふとも聞かずに仕舞ますが小供は然うでありません是れは何と聞てから次の問は何にするのかと其働きを問ひます母君此紙は何うしたのか何處から持て來たのか買たのか貰つたのかと理解しないうちは何時までも問て居ります肩につかまつて質つくどく聞きますから母君は迷惑ですから知らない顏をして居るのがあり升が此小供の問と云ふは實に一生懸命なので敵へぬと云ふは不慈悲の至りであり升是れが先づ小兒精神發育の道行きて御座い升。

今迄斯く詳しくお話致たとは世の母君達は皆御承知の筈で有升けれども其時こそは知て居れませうけれども喉元過れば熱を忘る習で後に至ては恐らく三人以上の子を擧られたるの人にあらずば私の今迄申たとを御記憶あるまいと思ひます故に斯う云ふ工合にして精神が發育して行く者との順序を申したのであり升が今度より醫者樣の方のお話をしやうと思のです先づ小供も大人も精神の宿て居る所の容子は何所かと云ふとを申しますが一躰魂がありて志、望などの出きるのは頭の腦髓であり升が大人の腦髓を出し

て見れば圓き豆腐の樣なものです小供のを見まするとやはり豆腐の如きものですが之を大人の腦に較ぶれば大層違ひ升大人のは堅さが丁度田舍で拵へた堅き豆腐の樣又小兒のは絹越しの豆腐と云ふ位です而して其色も能く似て居り升赤子の方の腦は大層水が多くて指で推せば直に破れます之に因て考へますと物を多く覺へれば次第に堅くなるのです小供の腦は又形が小さく御座りマス夫故小供は何うしても大人の爲すとだけを仕樣と云ても出きるものではありません又猶ほ委しく申升と精神は腦の上皮にあるものです豆腐の如き者の回りは溝鼠のもので包んであり升此所に精神がヤドリテ居升今之を較べますと小供の腦の上皮は平らで大人のは高い所と低い所とがあり升故に大人の腦は其上皮が大きくして精神も之に從ひて澤山に發育し升是れは醫者か解剖家の言ふとだから餘り述べませんが今一つ醫者に大事のとがありますから序に述べませう。

其は外ではありません生れつき頭の開くのがあります之を頭水と云ふて生れる前にもあるが大概生れてから發するもので腦の中に水が溜つて脹れて來て所謂福助の樣になり馬鹿となるので御座り升是れは水が溜る爲めに腦が推つけられて其働を爲すとが出きないのです又之と反對に頭の小さくして額より上のなき者もあります此等は大抵直きに死にますが幸にして三歲四歲頃まで生きて居るのもあります私は四十三才の西洋人の丈は私より高いが頭は小兒位のを見ましたソコデ是迄の例を見まするど頭又腦は大切なる精神を醸す所です。

是れよりは小供の精神心持を育て上るには何うしたら宜しからうかと云ふに小供の精神をでく強くして人に擢んで利口だと云ふ樣にするには第一身躰の衛生です身躰が強く健康なれば魂も健康になります

ソコデ衛生學で論ずる衣服の清潔空氣の流通食物の良否とか云ふとは私は略して申しませぬが精神の保ち方を申せば則ち精神の教育であらうと思ひ升小供の精神を其時に從て良方に導かうと云ふ考ですソレは今迄段々お話致した順に因て御考にならばお分りにならうと思ひ升先づ赤子に乳を上る時分には精神と身躰の十分發育するの始めでありますから乳を與ふる時に心得べきとは母が神經病とか精神病とか肺病とか小供に傳はるべき病氣のあつた時は則ち身躰の丈夫な乳母を置くが宜しく御座り升否らざれば後に至て母親と同じ樣な病を發するとが澤山あり升今斯く申せば必ずお諮ねが御座いませうソンナとを云ふけれども赤子は其母君から生れたのでは無いかと私は申します成程母親の血を以て居りますから病の本はあるが其乳を飲めば益々わるく致します夫故成るべく之を避くる樣にしなければなりませぬ又生れました時にマクリ杯を與へますがアレは何うでも宜しい者で御座ります今日までの習慣として不淨を去ると云いますが一口に云へば兒を苦しめるに過ぎません左ればとて害にはなりませぬ。

次第に目の發育して行く時も矢張母と乳母とが注意しなければならぬとが有り升即ち目の強くなる樣にするのだが白いもの又赤きものなど又光線の強きもので眩しきものを見せてはなりません後に神經病を起すの基となります且つ一ッ色を永く見せては能くありません乳を飲ませては見せ見せては飲ませる樣致し升次には物躰を動して之を見せ升然し最初は横へ動かして決して上下に動かしては往けません右と左りに眼がうつる樣になつて夫から上下に動かします耳にも矢張發育の順序があり升即ち聾かそうと云ふには靜かなる音樂を爲し遊ばせ樣とするには活潑なる音樂をして耳の力を強めます子供程音樂に注意

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

し調の合ふ合はぬを區別することは大人は中々及びません日本では昔しから音樂の盛んと云うでもありませんが歐羅巴に往て見れば上下の別なく六歳か七歳のものが巧にピヤノの音を合せます。小供が既に口をきくことが出きる樣になればアの字とかチとか容易き音から始めるが宜しい又齒の生る頃になればオシヤブリでも與ふるが宜しく有り升之を咬せて居ばハゲキを破つて引付ける樣のことなしに齒の生ることが出きます、歩行が出きはじまる頃には大人が左右から手を引て一歩〳〵に運び方を教へなければなりません然し歩行を始ることが餘り早過きると時として妙な足まがりになることがあります、言葉を教るにも虚言を教へぬ樣假名違ひのなき樣に注意しなければなりません教育が盛なる歐羅巴では小供のうちに隨分なるから日本のカーチヤンオッカー位は珍らしくもありません段々に改むる樣に注意するがよろしう御座る獨逸ではお出と云ことをコムと申しますが小供が之を言ふ時分にはトムと申します東京人は大人でもヒをシと云ひますが其邊を能更めぬと成長の後困ることがあります、泥こねりを始めます時は母君から何時も出る言葉が「衣をよごしてはいけないよ」と云ふのです然うでなければ叱つて止ますが是れは十分遣らせるが宜しひ寒暑風雨の時の外は隨意に衣服のよごれぬ樣にして運動させなければなりません小兒の氣を沮喪せしめぬ樣發達を妨げぬ樣「チヨイトお待ちと袂をはしより腕をまくつて出して遣るが宜しう御座り升音樂は通例聞くに聞かれぬのが多いから母君は一概に之を禁止するものがあるが是れは別に歌を作るとか正しき清き活潑なる音樂を授けて小供に歌はせる樣にしなければならんです。

永くて御氣の毒で御座いますが今少し申上ますソコデお友達が出きて來れば喧嘩を致しますが是れも惡

るいとではありません一には精神を挫き二には精神を發達させます「イヽエ私のだ」と奪ひ合するのも精神發達の一です故に此時は別に譴責を加へずに後で責むるも宜しい私も能く本鄕通りなどで見受け升がお神さんが襷がけで此餓鬼奴と云て拳固を振上るなどは宜しき事ではありません又小供が問題を出しで問ひかけた時は知らぬと云ふとなく綿密に分る樣に解きわかしをして遣るがよろしい丁度爰に面白き例があり升或時私は買物をして居ると向ふに母親は洗濯して居りまして小供も其傍に居ました時に烏が椽に止まりましたが可愛想に小供は盲目であるから何だか知らず大きな聲をして可畏〳〵と申すと母親は「アレは烏だから可畏ことはない」と喩しました小供は盲だから「烏と云ものは何だい」と云て聞ますと「黒い鳥さ」と敎へ次に「黒いとは何だ」と云て問ひますと母親は「此野郎奴」と云て頭を打ました盲者でも小供は聞ふと熱心して居るに此母親の如は實に惡べき者であると思ひ升ヨク注意せねばなりませぬ。

今迄申上た小兒敎育の仕方に基て幼稚園と云ふ者を建てゝ有り升彼の有名なるカール、フレーベルと云ふ人が小供は如何なる心持で居るかと考へ組立たのですが實に此幼稚園なるものは氏の實驗と盡力と學問とに依て拵へたのでありますから一口に言へばお子さん方が丈夫に育ち三歲以上にもなつたならば幼稚園にでも送て御仲間を拵へなさるが宜う御座る。世上で能く申すとには着物を汚すなとか此餓鬼奴とか外に出るとはならぬとか家に居ろとかアバれると御飯を遣らぬとか手を縛つて炭俵に入れるとか椽の下に押込むとか頭を打つなどは最も禁じなければなりません頭を撲ても決して心の更まるものでもなく折檻と云ふとは大抵にしませんと却て母親を馬鹿に致し小兒の精神は横道へ參り升大人でも天窓を撲た

れては昏倒するともあり小兒などは直ぐ死ぬともあり升ヒヨムキの邊は最も注意すべき所で御座り升若しも小供を撲たうと思ふなら肩とか臀とか害の少なき部分を撲つが宜しい餘り責めますと精神がいじけて一寸したとにも泣きます私の見る所では日本の小供ほど泣くものはありません三四歳から五六歳の獨乙の小供などは叱つた位いでは睨め返して逃る位であり升日本の小供なれば叱かられると泣き升又客に往升に母親が無沙汰見舞旁小供を連れて行く小供に於ては如何がと云ふに極めて惡るい事です母君は向ふの主人と話して愉快でありませう然るに小供は二三時間も默して大人なしくして居らなければなりません行儀を能くしろと云て禮儀上から云へば美くしいから私も贊成しますが精神を發育させ樣と云ふ方から云へば大層に惡るいとです小さな形をして大人じみた心にしやうとして却て頭をおさへるのです歐羅巴では客に行くに小供を連れません小供は小供同志を集めるだけで有り升。

終りに臨んで尙お聞に入れたいとは物語りのとであります舌切雀のお話しとか猿と蟹のお噺とか是等は宜しく有升がソレが募るとお化けの話しが出ますアレは大變に害があり升其譯は小供の腦は感じ易く又小供は之を信用するもので化物はコンナ形容と云へば能く之を記臆する者です遂には洗手場にも行くとが出きない樣になり升話し出す母君も平日變化物はないと信じて居ても矢張り可畏下心は有る者と見へ升何故なれば癲狂人となれば小兒の時傳聞た化物が目の前に見へ今爰に幽靈が出たとか狸が化けたとか云ふて本根を明かします夫ですから決して化物はなしに効能の有者では御座りません。

まだ申上げたいともあり升が餘り長くなり升から今日は是れだけにして殘りは後日に讓り升。（完）

○小供私己の衞生　大學教授大澤謙二述　佃與二郎筆記

左は三月廿四日大日本婦人衞生會に於て講演せられたるものなり。

私は先月口演する筈でありましたが病氣の爲めに出席が出きませんでしたソレデ最初は小兒の衞生と云ふことに就てお話し仕樣と思ひましたが今日は只其一部分に止め公衆の衞生は省きましたから私己と云ふ二字を加へて戴きました且つ私の小供と申しまするのは生れた時から十四五歳に至るまでを指して申すのであり升。

皆樣も御承知の通り植木屋の木を育つるにしても大きくなつてからは枝を曲げるにも思ふ樣にはなりません人間も其通り小さいうちから早く注意して曲げねばならんイヤ曲げるのではない曲り易いから曲らぬ樣に真直に育て樣と云ふのです或人は小供は生れぬさきから注意するが善と云はれたが固よりそれには違いない併し私の今日演るのは生れてからのお話しです。

私己衞生と限りましても其部を分れば幾らもあるこどで第一は小兒の養ひ方第二は皮膚の養生着物のことです第三は小供の住ッて居るべき所即ち居間寢間等のこと次は呼吸器のこと次は筋骨の作用眠ること又其次は小供の五官精神と云ふ樣な工合に中々申上ることが澤山あります此順を逐て次第に說て參り升。

第一、小兒の營養には如何なるものを食べさせたが宜しいか申し上るまでも御座いません乳です乳に過すものはありません然らば何時から飲ませたが宜しいかと云ふ問が起ります或は生れてから二十四時間位親の乳は飲ませずに「マクリ」でも飲ますが可と云ふ說もあるが是れは產のあッた當座は乳が出ないから箇樣のことを申すのでありませう只今申す通り乳に限るので「マクリ」抔を飲ませるには及ばん却てある

いてす產湯をつかつて眠て目がさめた所で乳さへ出れば直ぐ飲ませて宜しい若し永き間乳の出ない樣のとがあれば其時は牛の乳を飲せる乳一分に水三分と砂糖を加へあたゝめて與へるが宜しい。

次には乳は幾度位飲ませれば宜しいかと云ふ問があります是迄人の氣を注けた所を承りますに生れた日には二遍か三遍二日目には六遍から七遍飲むと云ひます私も氣を注けて見ますに必ず然うも參りませんともあるが大抵は其位です後には次第に度數がふへると云人もあるが夫れは親の方から殖してやつたと云ふ位なもので小供の飲たがるのは凡そ七度位です即ち三時間か三時半毎に飲のが常です生れた當座は夜と晝の界がありません段々日が經てば晝の間は二時間毎に飲む樣になり夜る乳を飲むのが少なくなつて後には夜分全く乳を飲まぬ樣になります是れは慣はし方によるものですから何時までも晝夜の別なきは畢竟するに親の慣わせ方が惡るいからと云ても宜しい。

次に乳を飲ませる時刻只今申した通り一日七回程飲むとすれば其飲ませる時を定むるが必用であります大躰一度飲んだ乳は一時半か二時間位は小兒の胃の中に這入て居るから然う度々飲ませるのは宜しくない故よ二時半位毎に飲ませるのが宜しいです夜中などは飲ませないでも晩の十一時から翌朝の五時位まては飲ませるに及びません是れは氣の附け方ですが往々泣さへすれば飲ませるので或は可愛想と云ふ考から出たのでありませう又泣くのが五月蠅いから泣かぬ樣にと云ふのでありませうがソレが慣になれば飲みたくなると泣く樣になりますから成るべく今申す通り晝の間に餘計にやつて夜るは泣ても飲ませぬと定めて置くが宜しい此注意が屆けば夜分大層に母親の骨が折れなくなります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

次に一度飲む時間は何うか是れも氣を注けて居つた人の話ですが大抵二十分から二十二分位で一度分は飲み終るものです丈夫の子なれば十五分位時としてハ一寸飲んで止め又二十五分も三十分も飲む時もありますが大概は二十分位と申すことです扨又乳を飲ませて仕舞つた時の注意がある小供が少し大きくなればバ巾か布を水に浸して口中をふくが宜しい乳を飲ませながら眠る樣なとがあつてはなりません其爲めに口中の病を起すから氣を注けて拭くが宜いです又乳を飲ませて直ぐと動搖る樣なとをしてハありませんソレから母親も乳首を布で拭くも是れも乳首の養生です乳を飲ませて居る間ハ母親の營養も成るべく氣を注けなければならん即ち消化易き鳥獸の肉とか卵とかを食るとてす酒なんどハ惡るいこと固よりです序に申さなければならぬとは授乳の間に藥を飲むとです親の飲んだ藥の爲めに小供に中るとがあるから手前療治などハ氣を注けねバありません。

乳を廢めるのは何時時分が宜しいか私も問はれたともありますが是れは歐羅巴と日本とは違ひます歐羅巴では早きは九ヶ月遲きは十二ヶ月即ち一歳です此地等では一歲ぐらゐで廢めるのはありません後に小供でも出きれば無據しにやめるが二年も三年も田舍などでは隨分七ッ位のものが母親の乳を目がけて駈つけるものあります是れは長すぎる早く廢めたとても決して害のないもので氣の毒でも可愛想でもありません唯乳を廢める時の養ひ方に氣を注けなければならぬのです又乳を早く廢めるとは母にとりましては必要のとで殊に丈夫の身なれば格別弱い人なれば永ければ永いだけ身躰が疲れるソレハ然うで御座いませう自身のからだになるものを小供に分けるのですから夫れだけ減る筈です國によつては乳を飲ませると「フケル」からと云て生れて直ぐ乳母にやつて仕

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

舞のもあるソレモ餘りだが永過るのもよくはありません或人の云ふにはソレモ尤もだが爰に一の氣を注けなければならぬヿがある一躰小供は澤山有るのが宜しいか少ないのが可かと云ふに人口の少ない國では多いのが宜しいでありませうが隨分人口の多い上に續々と出きるのも困る日本などでは國の幅員の割合では然うでもないが商買其他一般の狀態では人間は隨分澤山です子供は餘り拵へないでも宜しい然るに乳を早く廢めれば子が早く出きる歐羅巴人に年子の多いのは其爲である依て日本では餘り人に勸めて早く乳を廢めさせるのは宜しくない抔と云はるゝ人もあります併し此事は今日の御話に必要なる關係はありませんから別に述ませんが私は一年から一年半も經たら乳を止めさせる積であります扨乳を廢める時は何う云ふ工合にするか母親の乳をやめたら姑くの間牛乳を飮ませるが宜しい然し牛の乳を其儘ではありません其薄め方は後にお話しします初は七遍飮ませる者なら一回だけ牛の乳とし其次は二回三回と牛の乳を増し母の乳を減す樣よ致して牛乳に馴らすてす其次にはソップとか魚とか丁度日本で齒の生へかゝッた時トヽと云ふヿが出きれば魚を食べさせると云ふ一年少し過ぎた頃です其頃には鳥や魚の肉又御飯などで次第に牛の乳を減らすヿをしなければならん然しながら十分に咬こなすヿは出きませんからお粥の樣に軟かに拵へるです若しも牛乳が無いとか又下痢を起すトカ云ふ時は仕方がないからソップの中へ鷄の卵の黃身を入れて與へるが宜しい黃身は御承知の通り一個の雛になる程ですから十分に乳と同じ効力があります又お粥ばかり食させるなどは惡るい田舍の人は餅などで養ひますが宜しくはありませんソレニ乳を廢めさせるに夏はよろしくない是れには種々の原因もありますが先づ下痢を起し易いヿと牛

の乳などハ變り易いからなどであります。
母親の乳のなき時又ありても遺傳病傳染病貧血萎黄病癲癇ヒステリー腺病結核梅毒等ありて乳を飲ませがたき時は如何にすれば宜しいかと云ふに乳母です乳母を雇はなければならぬ乳母の雇方に就ては已にお話しがありましたらうが序でゞすから一寸と話しますがなかく〳〵氣を注けなければならぬ者で先づからだが丈夫で自分は勿論親類にも傳染病遺傳病が有てはならん乳房は大くして隱れながつてイヽ加減に青筋が見へると云ふ樣なのがよろしい餘り大き過ぎてもならず小さ過ぎてもならず傷があつてもならん押へれば乳が走り出ると云ふ樣なのでなければならん夫れからして乳母に兒がある時は其兒を見るのが肝要で男か女か幾日位たちしか其割合に肥太て居るか瘠せて居るかを見る若し其子の死した爲めに乳母に出たと云はゞ其兒は如何にして死せしかをも探究せざるべからず次に乳母の年は十八から三十二歳位までと云ひ升詰り二十歳から三十歳まで位は最も丈夫で乳も澤山あるからの事なりそれから何時頃子を生んだ乳母が宜しいかと云ふに雇ふ人より少し前に生みしが宜しい四週間から五週六週間位のがイヽです餘り早き乳母を取れば乳母の子に對しても氣の毒なり又乳母も産後直ぐなれば病氣に罹らないとも云へない夫れから乳がイヽか惡るいか是れは普通の人には見分けがたいです濃ひ薄ひ位のことは分りますが理學的や化學的の性質又顯微鏡上のことなどは普通の人には分りませんならうとなら醫師に撿查して貰うのが宜しい若し田舎抔にて左る人も無いと云ふとなら仕方がないが自分の見込だけで宜しい其外乳母の氣質は穏和で深切でなければならぬと云ふともあるが乳母に出る者抔は固より身元の善き所から出るのでもないから餘り八釜しく云ふ譯には往かんで

す故に言ふとを[illegible]ざる[illegible]しの者たけは[illegible]けなければならぬが然ら八釜しく云ふにも及ばん又乳母も生母と同じく好き滋養物を與へなければならぬ然し雇ふ人の暮し方と從來の暮しとは違ひますから之を急に變化するのは宜しくありません又一日備のみを命じて外に出ることを禁ずるなどは宜しくない御覽の通り乳母を雇ふも中々面倒ですとは云へ母親の乳の出ない時は乳母に限ります。

然しながら乳母がなきか又之を雇ふ資力が乏しいとか云ふなれば外の方法を以て養はなければならぬ即ち人工の養ひ方ですこれにも種々ありますが第一は牛乳です牛の乳は何う云ふものがよいと云ふに極く新鮮のものでなければならぬ試驗紙と云て藥師屋などにある青色の紙切れを入れて見て赤くなるのは酸くなつたので惡るいです牛によつては搾り初めより酸いのがあるから注意しなければなりません又近來は水を入れると云ふ様なとを[illegible]しは避る様てすソレに困るとは容器の不潔なのです牛の乳は奇麗にしないと變り易いものですから乳を入るゝものゝ掃除が屆かんと直きにバタとかチースとかの香いがします器の底に舊い乳がコビッイて居ると云ふ様なのは決して飲ませてはなりません又新鮮にして交ぜ物杯はなきも乳の類によりては良否があります是は普通の人には見ても分りませんから乳母の乳を撿査する様に其道の人の撿査を經たる上に其乳店を定め乳の絞りたてに持て來いと云ふ位に致すが宜しう御坐います。

牛の乳と人の乳とを較ぶれば牛乳は濃過ぎますから之をうすめなければならん其比例を圖にしてお示し申しませう。

生兒	牛乳	水
一日ヨリ二日ノ間	一分	三分

四週間ニ至ルマデ	一分	二分
五週ヨリ満二ヶ月頃迄	一分	一分
三ヶ月目ヨリ以後	百分	七十五分
六ヶ月以後	二分	一分

右の如くに次第に水を減らして九ヶ月目位になれば其儘で飲ませても宜しい且つ牛乳には糖質が少ないから砂糖を少し加へます一度分に凡一匁ぐらい倘委しく申せば上記の混和物百七十五分に就て砂糖四分八厘の割合で加へます且又其儘では冷いから暖めねばならぬ攝氏の三十八度華氏なれば九十九度位にして與ゆるが宜しいです分量を定め時間を定むる等は渾て母親の乳と同様です詰り入り用だけ飲めば小供は餘します餘ッても宜ろしいから其の時は壜を取てあとは捨てしまいます小兒の口をふいたり器を淨めるなどは前に述べたる通りです。

小兒は一回に飲む分量は凡そ左の通りであります。

初日	一回に付き	三匁三分
第二日	仝	六匁六分
第三日	仝	七匁五分
第四日	仝	十匁四分
第五日	仝	十三匁
第六日	仝	仝
第十日	仝	十七匁四分
第二十一日	仝	廿五匁八分
第四十日	仝	廿八匁二分
第六十日	仝	廿九匁六分
第九十日	仝	三十三匁八分
第五百十日	仝	三十九匁六分

時としては牛の乳を貯へて置かなければならぬとがありますそれには炭酸曹達とかサルチル酸とか色々の法もありませう併し朝の内に煮立てゝ冷やかなる所に置くが一番宜しい。

然しながら所によれば牛の乳も無い所があるから其時は是非もない稠濃牛乳を用ゐます蘇士國や亞米利加で出來たのが日本に大分參ります然しドロ〳〵になつて居るから之をウスメなければならん水十五分位を入れるのですが何うも砂糖が多過ぎて往けません近來は大分に流行ッてコンデンスミルクで養ッたら母乳を飲ませた時より肥ッた杯と云ふ人もありますが然うもいきません成るべくは飲せぬ方が宜しい是れも矢張其筋の人に鑑定をして貰うがよろしい其外「リービー子」「子ッスル」など云ふ人の拵たのもありますが何れも餘り善からざる品ですから詳しきとは御話し致しません。

追々世の進むに連れて御婦人方の用が殖へるから乳を飲ませる暇もないで「コンデンスミルク」を飲ませると云ふ人もあるかも知れませんが是れは能くありません今人工で育てた者と母親の乳で育てたものその躰重の比較をお示し申しませう「ルッツー」氏の試めした所では左の通りであります。

年齢	母乳兒ノ躰重	人工育兒ノ躰重
一年ノ終	九九三〇ガラム	七四三〇ガラム
四年ノ終	一四二〇〇仝	一二〇〇〇仝
八年ノ終	二〇七〇〇仝	一八三〇〇仝

獨り躰重のみならず身の丈に於ても違います今其比例をも序に述べませう。

年齢	母乳	人工
一年日	七三仙迷	六六仙迷
四年日	九八仝	八七仝
八年日	一一六仝	一一三仝

之に因て見れば母の乳に限ると云ふとは分りませう。

次に二歳より六歳までの間は如何なるものを與へて宜しいか食事の度は五度ぐらゐが宜しい日本では大人は先づ三度としても小供に至ては三度の外に朝起

るとお目覺しのお菓子ソレから晝前一度晝後一度寢る前と七偏ばかり食べます歐羅巴杯では五度位です餘り間に色々のものを食べさせるは感服しません食品は消化れ易き肉類とか卵とか米飯豆腐などを食べさせてお菓子とか筍とか皮の堅き菓物麥飯澤庵などは餘りよろしくありません中にも蠶豆甘藷豌豆などは腹が大きくなつて大變に徃けません然し此等のものが間のたべものになつて居るのは困たものです或は御飯を食べずに間のものばかりで濟す樣なとがあるが能く注意せんとなりません六歲ぐらゐからは可成消化し易き物を撰ぶは勿論なれども先づ大人の食物と同じです此際烟草を吸ふたり酒を飮んだりするとは固より禁じなければならん小供のうちは藥味など香氣の強きもの辛き物などは惡い次には分量だが何時でも過ぎては惡るい小供のうち「ヒキツケ」たりしても吐いてしまへばケロ〳〵と愈ることがありますが大抵は食過です。

第二○○皮膚のと皮膚は急に暑かつたり寒かつたりしない樣にせねばならぬ特に生れたては寒さに堪ないから中すまでもなく注意するが宜しい皮膚攝生の第一は浴法であります即ち産湯をつかつてから後は每日一度づゝ湯に入れるが宜しい湯の効能は總ての働らきを丈夫にするものです就ては湯の暖かさ湯に入れて置く時間などを定めなければならぬが餘り熱いのは宜しくありません攝氏の三十五度華氏なら九十五度がよろしい是れは生れたてのとだが後になれば次第に冷やしても宜しい入湯の時間は六分から八分長くて十分夫れより長くなると惡るいです滿一歲頃になれば每日入れないでもいゝ少し位鼻風を感たからと云ッても湯に入れても構いません尤も病氣が重いと思へばお醫者に聞かねばならぬがソンナニビク〳〵するには及ばん又此全身浴の外だが局所浴と云

ッて洗ひぬぐッて道のも宜しい腋の下とか股の間とか總て皮の皺の寄る所其他頭部陰部肛門などは能く氣を注けなければならぬ初めのうちは洗ふのにからだと同じ位の暖さのがよろしいが後になれば餘り暖かいのより冷いのが宜しい仕舞には汲立ての水で洗ふのがよろしい容易出來ることですから朝起きた時と夜寐る時に海綿を冷水に浸して洗ひ拭ふもよろしい三歲から四歲弱い小兒は七歲位になれば夏の內は河水浴海水浴などが宜しい是れもからだの爲めになるのです。

序にお話するのは臍の緒だが一番はじめは產婆がして吳れるから宜しいが湯に入れた時は油をしめした布にて能く包んで左りか右か何れにか曲げ補帶て縛りそくなり餘り急過ぎても緩過ぎても惡るい其爲めに焮衝を起すことがあり升又之を淸潔にしませんと病の種となり升御承知の通り日數を經れば天然に落ます落ちた跡がたゞれることがあるから注意して布にて覆ひ毎日能く洗ひ淸めなければならん落たては軟かですから泣かイキュかすれば出臍となるか左なきは腸を出し又糞を出し遂には死ぬと云ふ樣になるから餘程注意に注意を加へないとなりません。

次には頭のことです御承知の通り七日の晚には七夜とか申して髮の毛を剃るが是迄の風習でありますが近頃は止めた人もありませうが隨分まだ遣ります是れは髮の毛の黑きを望むので女などは毛は是非に黑くなければならん近來束髮なんどが流行るから赤い毛がいゝかは知れぬが矢張黑い方がいゝと云ふ人が多いから度々剃りたがる人がありましやう併し日を經剃ても矢張同じき効能があるから慌てゝするにも及びません頭に腫物などのするは天然にして置た子には少ない少しにても傷がつくと夫が元で直に腫物となります胎毒などと世人は申しますが多くは是れから

出來る樣に思ひますから九ケ月目ぐらゐ迄は剃らぬ方がよろしいです。

是れからは着物のことですがソレハ既に一月の會にお話があつた樣ですが手足は十分に動けぬ樣に、緊く着物を着せてはなりません品は軟かき木綿がよろしい毛糸の猪衣薄き「フランチル」などは最もよろしい日本の着物ではアノ緒がわるいです腹を縛るのでなくして胸を緊るので其爲めに胸がヘコムと云ふ樣なことがあるが是れは廢めなければなりません又染色などのことに就ては大方お話のあつたと思ひますから述べません生長して洋服を着る時も彼の襟などは無い方がよろしい餘り緊めますと血の環りを惡るくします又襟卷なども入りません少し感冒ても搆はん成るべく少し寒い位にして育てなければならぬからアンナ物はよくない總て上等の所に多いが寒いだらうと云ので着物がからだの厚みより厚くデク〳〵して居るのは運動にもわるし又慣となると矢張ソレ丈着なければ濟まぬ樣になるから成べくは薄着がよろしい故に食物は貴人の樣に着物の數は貧乏人の樣にするがよろしい靴なども能く注意すべきです近來は靴が流行ですが固い靴や緩過る靴はいけません次第に成長する時ですから足が靴なりに成長します能く注意しなければならん然し寧ろ狹いよりは緩過る方がよろしいと思ひます。

第三は居間のことです居間の暖さは攝氏の十五度より二十度で(華氏の五十九度より七十七度)急に冷温ありては惡るいシカニ日の光りのあたる所がよろしい銕の「ストーブ」杯は勿論危險にてわるいソレから部屋の内には物を置かぬとオモチヤに腰掛ぐらゐにして角稜のある者は置かぬがよい又た寢處を居間と別にするがよろしい居間も寢間も八釜しい所や狹くるしき處では徃けません可成は家のうちにて一番好

き部屋を與ふることとするがいゝです。

○○夜具は軟かき木綿かフランネル又は毛の織物がよろしい被衾は成丈け輕きを貴ぶ床の拵へ方には色々有るが歐羅巴風にすれば格別日本風の蒲團なれば先づ此位で宜しい蒲團の皮だけむいて洗濯する事是れは能く氣を注けねばならぬとて身即ち綿羽毛の臭ひを嗅でみて臭のあるのは直ちに蒲團に用ゐてはなりません又母親其他のものと一所に寢ると是れは如何にと云ふに一所に寢ぬ方がよい只小供を別々に寢かすのを恐れるのは冬時寒いだろうと云ふのだが併し能く蒲團を被せれば自身のからだの中に温が出から母親が暖めてやらいでもよい一所に寢るとはお互の身躰の爲にわるい大人でも二人寢ると大變にゴツく衝當て氣持がよくない子供も其通りです又子供は寒いだらうとて温石とか瓶に湯をついて入れるとがあるがソンナとは仕ないでもよろしい暖めて置て夫れから寢かすなどは宜しいが温石を入るゝ抔は却て毒です是は廢めた方がよろしい只困るのは夜中に乳を欲して泣くのですが是れも慣し方によれば度々飲まずともよろしいから成るべくは別にするがよろしい懐寢の刎呑なることは隨分乳を飲ませながら眠て仕まい息をとめた抔と云ふとがある瑞典では年に六十五人懐寢の爲めに殺した事があります今でも英吉利では千人に就て一人位の割に殺します其都倫敦では千人に四人位死ます又た「ポルミンハム」などは九人三分即ち生兒百人に付凡そ一人の割です日本では明かに分りませんがかゝる話があるのですから成るべく一所に寢るは避けた方がよろしい。

第四に○○○呼吸器のを話ですが先づ胸膈の大きく發育する樣に注意しなければならん夫のみならず呼吸運動を自在ならしむとに注意しなければならず體操とか大きくなれば泳ぎとかは宜しいし固より空氣は新鮮

のものでなければならぬから可成外に出すがよろしい遊嬉には外が一番よろしいです又聲のたつ様にしなければならん夫れには唱歌などをさせても宜しい尤も小學校では餘程大きな聲を出して本を讀みますから別に唱歌をさせないでも宜しいが是等も肺を強くする一端です。

第五筋肉と骨格とに就て殊に注意すべきは身躰の位置であります私は御覽なさい此様に猫脊だが斯う云ふ工合に延して居るのは困難です故に子供のうちから八釜しく言て胸を突出し肩を後ろに引込まして遣るがよろしい是れが六ケしいなれば緒を懸けて俯けば痛いと云ふ工夫にして慣すがよろしい膳机は餘り低いのでは悪るい躰を前に屈ませるとなく俯かぬ様にするは胸膈の發育に最も必要なることであります今日此にを出の方にはソンナともありますまいが小供に重きものを擔がせるなどは往けません。

歩るき方に就て一寸申して置きたいとは是れまでの御婦人方は 斯う云ふ歩るき方がよかつたさうですがこのごろは洋服などを着るから皆 斯う開いて歩るくが此方がよろしいです私なども癖がつきまして無理に開いて歩るかうと思ふと股の方が開いて 斯う云ふ形になつて歩るけませんソレ故洋服を着ても見苦るしいです婦人方の洋服で屈んで歩るくのを随分見受けますが是れも随分に見苦るしいです小供のうちから早く注意しなければありません日本人の脚は多くは「へ」の字でありますが是は坐るのと一つは負ふのが原因と思ひます負ふたる兒は身躰の運動が自由でありませんから其發育を妨げ殊に胸を壓し足を曲る害があり又小兒の眠易き害がありますが是は御廢止致し度事です。

小供の眠ることに就て何お噺しします生れたては乳を飲みにをきると云つて宜しい位です三週四週目位より十五分から半時間位引き續いて起きて居ますが五ヶ月目位には一時間位をおいて眠ります十ヶ月から滿一歲でもまだ眠る間の方が長いが次第にをきて居る時間の方が長くなつて終には晝は起き夜のみ眠ると云ふ樣になります其眠らぬ方について母親の氣つけ方があります其は時間を定めて眠らせる事で昨日眠ッた時間になれば必ず眠らせる樣に何時から何時まではおきて居ると規則正しくして眠る時間が來ればば騷がしくない樣にしてチヤント眠らせなければなりません母兒雙方の爲でありますニ歲から六歲位までは寢ないで困ると云ふとがあるが氣を注けてみますと往々蒲團が暖たか過ぎるとか重過ぎるとか又食過ぎ可懼はなしを聞たとかで眠むれないのでありますから注意しなければなりません「フリードレンドル」と云ふ人は小兒の課業を左の通りにするがよいと申しましたが私も如何にもと思ひましたから其表を揭げて見ませう。

年齡	睡眠時間	休息時間	體育遊戲時間	精神的課業時間
七年	九乃至十時	四時	十時	一時
八年	九時	同	九時	二時
九年	九時	同	八時	三時
十年	八乃至九時	同	八時	四時
十一年	八時	同	七時	五時
十二年	八時	同	六時	六時
十三年	七時	同	五時	七時
十四年	七時	同	同	八時

まだ此外に五官や精神のことをお噺すればするのですが只今頂戴した雜誌を拜見すれば已に前回に御聞になつたと思ひますし且つ時間も永くなるから最う此位にして止めませうと思ひますが只一言申したいとは好き傅の無いと云ふとです御承知の通り小供はみ

な其親に似るもので咳嗽聲までも親に似ると云ふ樣なものです所が佛蘭西あたりでは乳母の育てる方が多いから乳母の聲に似て親の聲には似ないなどと云ふことがあります左れば母親は成るべく謹慎して子に望む所は母自らすると云ふ樣でなければならぬ傅に任せるも子供が澤山あれば仕方がないが母親について居る間より傅について居る間が多いといふ樣な事は成可避けたき事です傅は小供の師匠ですから餘程吟味して擇ばなければならぬ然るに何うもよき傅のなきは歎わしきことであります今の幼稚園は大概學校風で僅かの時間で家に歸ると云ふ樣な都合ですから成るべくは幼稚園の外に小兒の預り處と云ふ如きものを設けて遊嬉させたならば餘程によかろうと思ひます兎に角傅の養成が必要であらうと思ひますから序で故にを話して置きます。格別面白くもないことを永々とお断して嘸々御退屈であらうと恐縮に堪へません。（完）

○唾液消化力の話 附其試驗

宮本仲述　會員筆記

左は四月十四日本會演説會にて演述ありたるものなり

今日私がお話し申さんと思ふ所は餘り新奇の論でもなく又た大に面白き談でもありませぬ然れは御爲めにも御樂みにもならぬことでありませうが其れを殊更個樣に演題を掲て一言陳べんとするは皆樣の御迷惑かも存じませぬ去り乍ら茲に之を演るは聊か故あることにて候得は先つ暫く御耳と御目とを拜借致ま升。考へまするに我邦の立國は西洋各國よりも年紀古して一口に申さは兄貴株であります而して此兄貴ハ彼弟輩よりも知識も博く經驗も富みて居らなくてハならぬ筈に思ハる然るに當今の形勢にてハ反て彼の弟輩に萬端劣り居る樣にて遺憾千萬に候其所以ハ何で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ありま升。
實に我々の祖先達か皆な不斷居眠を爲し夢計り見て居るなりと云ふ譯でもあるまじ急度日々相當の働きを爲し居たるに相違なし然れども其働き方か晩今の如く方向も定り規則も立ち居る結搆の有樣にてハ無之唯た空々に神身を勞したるのみと云ふに過きさるならん中には考へ違い爲し誤り抔もあり此違や誤りと云ふは尤も微々たる小事の樣でも之を一身一家より尙ほ一國に積り更に年代に合せて算當したるときには漸く非常の大事となりて損害太甚しきものであり升例之ハ支那人か阿片煙草を嗜むか如く先づ一人か之を吸ふて其身に快美を買はんとするもの其風延て一家族に及び又た一國に流行し幾多の人民此吹煙の爲めに時と金とを費し加之阿片中毒の爲めに遂に其身を滅すに至るもの數多あり尙ほ之を年々に積りたらは其損害果て幾干の夥しき乎私抔には算へ得るとか出來ぬ樣に存じます信に恐るべきとであります就ては本會の如きも旨意と方向とを取り違へぬ樣上手に實益を謀らねばなりません又たお互に自今は奮發して一層能く働き急度各國に對して兄貴の株を取り返す樣に勉めようでは御座ませぬか私は皆樣の驥尾に付て提灯持でも致し升。

他の論は差し置て更に衛生的の義に就て古來我邦の風習中の攝養上に於ける一斑を演べて漸く本題に及ぼしま升うが偖て往來我邦には未だ衛生のとが開けて居らねば間々不知不識該法に適へる如き養生家のなきにしもあらざれども多分は粗暴なる不養生のもの在るあり殊に武士と稱ふる家人に於て比々之を見たるか如し回顧すれは本邦にては往古より兎角戰亂打續き人々の心自ら武骨となりたれは間々文事を磨き優美を好む人ありしと云へとも敢て之を世間に擴るに至らす足利氏の時大に治りて文學次第に

開け茶の湯杯と云ふ優美なる所作も行はれたりしか復た亂世となり徳川氏の代に至て再び泰平引續きたるも尙ほ大小及び武士なるものありて各々武備を貴び剛强の風を重じたるを以て遂に或は考へ違を爲し誤りの悪弊に流れ自らは神國の民と稱し他邦をは獣視し輙もすれは妄りに粗暴を爲して之を大和魂と誤想せる痴人を出すに至りたるか如し而して其害は明治の聖代に至りても尙ほ全く痕を斷つ能はさる樣に見受られます。

大和魂なるものは誠に結構なる精神で我が同胞は老若男女の別なく各人之を具ふへき所にて之を存せさるものは我が　陛下の臣民にあらすと云ふも可ならんか然れども文政時代の或る頑老等が唱ひ且つ信ずるか如き旨意違ひ思想違ひの大和魂は偏に御免を蒙り度存します聞く所に據れは舊幕時代の武家にては壯年の人集合し粗食會粲食會鯨飲會杯と云る如き命知らずのことを催し以て雄氣を養ふの手段と思ひ所謂治に坐て亂を忘れざるは大和魂の致す所なりとし粗暴を以て衆に勝るものは自からも倣り人も賞して措かさりしとか私は之を聞きて其思違の甚だしきには驚き入りました嗟呼夫の大和魂なるものは決して然るものではありませぬならん眞の大和魂なるものは右の如き野猪武者の所爲とは大に其趣意を異にせるものにて例之は治世に在りては文を修め武を講じ又た攝養法に由て身躰を强壯にし教育を盛にして子弟を養成する等萬般の事業皆な男女各々其分を盡し今やと謂ふときには百折撓まず外人の侮辱を受けぬ樣に身命を拋つと云ふ程の氣力を蓄ひ所謂富國强兵と申す實况を呈さんと心掛くるか如き上等の風を言ふかと思ひ升借て此氣象は何時萌すものかと云に既に幼若の年輩に於て專ら發成し居る樣にせねはあらず而して其嬰孩を教育するの任は誰

に在りやと云ふに實に婦人の責に在り然らば眞の大和魂の根原を爲すハ各位の慈善心に出ると申すも敢て誣言にハあらざるべし故に私ハ本會程國家の爲めに實益のある集合ハ尠きかと信じます就てハ何卒皆樣の御盡力にて此會を盛に致し度存じ升又た私ハ本會を利益ありと認むるのみでハなく各位に向て大に現今と將來とに就ての冀望することがありますれは追々に之を御相談する積です扨て今日に於て先づ其希望の皮切りを致すのであります各位も面倒の會員を持たと思召て此願を御聞取下され。

是迄私が先生方に伺まするに何も日本にハ歐洲よりハ胃病が多い樣だ是ハ食物の爲めに原因するのだろう固と米飯ハ肉食より滋養分を含むとが少い故に其滋養分の不足を償ふ爲めに自然と多量を食する樣になると而して又た米ハ肉よりも胃に入りて胃に苦勞を掛くるものであると等の譯で遂此病氣を起因するに違ひあるまい云々と扨て私も醫を業とする身なれば生意氣に何でも我が同胞の胃病を未然に防ぎ度と存じて先づ剛はき米麥飯を鵜飲にするとお茶漬飯を掻込むと非常に澤山の香の物を食するなどを禁じたらば多少胃腑に樂をさする故に此病も少しハ減ずるならんと思付きました依て其已來ハ殊に胃病の患者を診療する毎に剛いきものを禁じ且つ能く咀嚼て召食れと話しますと前にも申した誤想の大和魂ある頑老等答て曰何に我輩ハお粥ハ嫌だお茶附が好だ嚼めハ唾が混じて不潔い香の物ハ淸く肉類ハ穢れた若年の折にハ粗食會で黒米を食べたともあるが其ですら胃病ハ無つた今更卑屈のとを爲さぬも宜い抔ど平氣の暴言を發せり私ハ此返答を聞きて自分の說き方が下手だから彼樣に信ぜないだろうと倚ほ繰り返し綿密に其害あるを述へますと又た何に當今の人ハ異人に欺されて弱くなつたのだ抔と申居れり之を再

三説論せんとすれハ終にハ一場の論波を揚ぐるに至らん勢となる故に是れハ私がまだ青吻の身なるからだと自ら歎して默止し追々徐に説き伏せんと心掛け其が爲めに殘念ながら貴重の光陰を消費するとが度〱あるにハ困り入り個ハ何したら宜ろうと段々考まするど當婦人衛生會に來りて御願するが一番の上策なりと云ふとを思付きました何となれバ各位の柔和なる麗辭と信實ある芳情とに出でたる忠告や説諭を聞ては如何に頑鈍ある翁媼でも敢て暴言を以て之に抗論するとは出來難かるへし粗暴の抗論を發せすして靜に聽聞するときは其道理を容易に了解し得るもので其れが分れは忽ち皆様の説に從ふて衛生法を守る様にあるは必常ありと信じ升是れハ所謂柔以て剛を制する所以の策畧に基くものです即 私が茲に珍らしくもあい演題否あお願を殊更に掲出したる原由であります。

前の如く陳ぶるときは本題を唾液の作用にのみ限局せずして口内消化の良機とか咀嚼の必要とか汎く説きたる方宜きかと思はれます然るを斯く致し置きます所以は早く唾の何物たるかと云ふ所に御考へが付きまする様にと存するからです即ち唾液は頑老等が申す如く不潔あるものでは無く而かも尤も必要なる分泌物である理を簡約に御話し申して先つ第一に皆様方の御理解あらんとを希望する心得なり。

咀嚼と云ふハ論理上に細論すれば何筋肉何神經の機能に在る抔甚だ六ケ敷ありますれども之を單一に俗言すれば前歯にて食物を噛み切り之を唇や舌の作用で全く口内に送り込み又た之を舌の媒に由て上下の舊歯の間に送り而して下顎はパク〱動き歯間の食物を咀み碎く其時頬肉と舌とが内外よりして食物が歯間より逃げ去らぬ様に抑え留めて容易く細挫せしむ此際口內諸處の粘膜よりは粘液を泌別し唾腺より

は唾液を分泌し以て食物を濕はす故に齒尖と口内諸部とに餅でも何でも粘り付かぬ樣に防ますと云ふ順序です斯く致して既に細砕した食物は再び舌と口蓋との間に來り團子の樣な一塊となり咽頭に送られ食道を傳ふて胃中に入る譯でありまして個樣に咀み砕かれて柔かになりたる食物殊に口内に於て既に一回唾液の作用を受けたるものが胃中に來たれは此腑を勞するとか急度少く從て疾病を起すとが稀なるに違ひない道理であり升各位は知らるゝか否や可なり空腹にありたるとき食饌を見て大に喜び急きて茶漬飯でも食した後には數々腹痛か起るとあり然れとも之を能く噛みて徐かに食すれは敢て胃病を起すの理なし即ち是れ上の例として考ふるに足ります。

唾液は體内に不用なるものとして排泄せらるゝものに非して生理的必要なるものとして分泌せらるゝ所の液なれは決して不潔なるものに非ざるとは喋々を俟たすして明です而して其要用は恐くハ西洋の肉食する人よりも東洋即ち本邦の如く穀食多き人に向て殊に大なるならん何となれは唾液の消化作用は米麥稗蕎等にハ其力を逞ふするを得れとも肉類魚類雞卵等には然る能はざるものなれはなり又た反之肉魚卵等は胃中に於て消化すれとも穀類の如き粉質物は胃液には消化せられすして全く胃中を出て腸内に來り膵液なるものに逢ふて能く消化せらるゝものなり然らは粥飲にしたる肉片は漸く胃中に消化するとあるも茶漬の飯は胃中に消化せられしハ大に此に徒勞を掛る理であり升。

御互なる本邦人に取りて唾液が殊に有用なるものとすれは何各位の十分なる理會を冀望せんか爲め今や一二の試驗を以て該液の作用如何を貴覽に供すべし乃ち唾液は耳下腺舌下腺及び顎下腺なる三處より口内に分泌せらるゝものにして一日間には殆んと五合

乃至一[illegible]
に至て[illegible]
に丁度[illegible]
り故に[illegible]
を異にすれども皆[illegible]
理會し易し（解剖上[illegible]
ます）而して其質の粒々の中に[illegible]
て時々刻々澤山の唾液を作りて是より段々[illegible]に
集め終に口内に輸出するとてあります此に於て粘液
と合し始終口内を濕して居るとは皆様の御存知の通
です。

唾液の性質は三種の腺の別あるに從て多少の差異は
ありますれども口内に出て粘液に混合して溜り居り
お互が尋常唾と申居るものは左の如きものあり。
混合したる我々が通常唾と稱し居るものは臭もなく
味もなくして多少粘り氣ありて糸を引き且つ澤山の

際に於て其[illegible]に[illegible]
リン」及葡萄糖と云ふものに變せしむ[illegible]
る故にて此消化を惹起す作用は唾液中に唾液素なる
一種の醗酵素あるに由る故て丁度麹を造くるに[illegible]
を以てし酒を醸すは[illegible]の[illegible]に由ると同様
て唾液素の力を以て[illegible]食物を[illegible]せしむるもの[illegible]
り升。
唾液素の力は[illegible]質の[illegible]等の異なるに從て[illegible]あ

り即ち小麥粉は米粉よりも早く消化し馬鈴薯よりも速に醱酵するものです殊に小麥粉は麪包となせば米飯よりも唾液素に由て消化すると早くして且つ十分し又た粗大のものは細末よりも遲く生なる粉質は炊きたるものより消化大に遲く且つ不十分なり私が數々或る器械を用て病人の胃を洗ふときに實驗するに麪包と牛乳を飲食したる患者の食後二三時間の後に在ては洗用水の中に糊の如きものが混し出るのみなるも米飯を喫したる病者にては食後三四時を經るも尙ほ浸漬膨大したる米粒が（咀み殘りたるものあらん）離りて出て來たるを認めまして此一時にても旣に私は茶漬飯杯胃を勞し胃を害するものなるとを知り升故に咀嚼して食するとの要用と唾液の有力なると信じます。

唯だ唾液に右の有効なる作用ありとのみ申てハ皆樣ハ或ハ半信半疑で在らるゝかも知れません故に是から其試驗を致して御目に掛ます即ち一は米に唾を混し一は麪包を用ひます又た他の一は之に醱酵力を衰殺したる唾液を加へて其如何の成績あるかを比較致します御熟覽あらせられ度し

試驗

米飯（甲）並に麪包（乙）ハ能く咀み碎き唾液の混加したる儘試驗管中に入れ適宜の水にて薄め糊を造ると同樣に酒精燈上に熱めますと外に（丙）の一管には先づ唾液を入れ之にハ先づ煮沸して其唾液素即醱酵原の作用を亡失せしめ後に壓し潰したる米飯を入れて再び火上に熱するると甲乙の兩管の如くにします偖て此三管中何れのものか澱粉質を消化し居らざるやを試驗致します即ち該管の中に初め白色なる此加里滷液と申す藥を入れ次で硫酸銅溶液と云ふ此の綠色のものを加へ御目の前で斯く熱しますれば此の三管の中急度何れか異樣を

乃至一升程の分量を算します而して其三個の腺と申は皆な唾液の製造所でありまして甲は耳の前下方乙は下顋の下緣の內側丙は舌體の直下に位し各一對なり故に左右を合せて六ッとなります其形は各〻大小を異にすれども皆な葡萄の房の如きものと考ふれは理會し易し（解剖上組織上のヿは皆な略して置きます）而して其實の粒々の中には製造人が澤山居りて時々刻々澤山の唾液を作りて是より段々と蔕蔓に集め終に口內に輸出するヿでありまず此に於て粘液と合し始終口內を濕して居るヿは皆樣の御存知の通です。

唾液の性質は三種の腺の別あるに從て多少の差異はありますれども口內に出て粘液に混合して溜り居りお互が尋常唾と申居るものは左の如きものなり。

混合したる我々が通常唾と稱し居るものは臭もなく味もなくして多少粘り氣ありて糸を引き且つ澤山の泡沫を混したる暴暗の液であり（理學的化學的のヿも又た大に關す）之を顯微鏡の下で見ますれは唾液球上皮細胞坏ど云ふもの及び食物の殘片等を見るものです而して此唾は食物を濕ほし消化する効能の他に味を感ずるヿと言語の爲すヿに向て大に緊用あるへきなり。

唾は右の如く要用ある分泌物にして殊に本邦人の如く穀類を食する人に要ある譯は即ち唾液は咀嚼する際に於て其粉質に混ずれは漸々之をして「デキストリン」及葡萄糖と云ふものに變せしむへき力を有する故にて此消化を喚起す作用は唾液中に唾液素なる一種の醱酵素あるに由る故で丁度麹を造くるに麹種を以てし酒を釀すは酒原の働に由ると同樣なる譯で唾液素の力を以て粉食物を醱酵せしむるものであり升。

唾液素の力は粉質の種類等の異なるに從て強弱あ

り即ち小麥粉は米粉よりも早く消化し馬鈴薯よりも速に醗酵するものです殊に小麥粉は麺包となせば米飯よりも唾液素に由て消化すると早くして且つ十分し又た粗大のものは細末よりも遲く生なる粉質は炊きたるものより消化大に遲く且つ不十分なり私が數々或る器械を用て病人の胃を洗ふときに實驗するに麺包と牛乳を飲食したる患者の食後二三時間の後に在ては洗用水の中に糊の如きものが混じ出るのみなるも米飯を喫したる病者にては食後三四時を經るも尚ほ浸漬膨大したる米粒が（咀み殘りたるものならん）雜りて出て來たるを認めまして此一時にても既に私は茶漬飯抔胃を勞し胃を害するものあるとを知り升故に咀嚼して食するとの要用と唾液の有力なると信じます。

唯だ唾液に右の有効なる作用ありとのみ申てハ皆様ハ或ハ半信半疑で在らるゝかも知れません故に是から其試驗を致して御目に掛ます即ち一は米に唾を混し一は麺包を用ひます又た他の一は之に醗酵力を殺したる唾液を加へて其如何の成績あるかを比較致します御熟覽あらせられ度し

試驗

米飯（甲）並に麺包（乙）ハ能く咀み碎き唾液の混加したる儘試驗管中に入れ適宜の水にて薄め糊を造ると同様に酒精燈上に熱めますと外に（丙）の一管には先づ唾液を入れ之にハ先づ煮沸して其唾液素即醗酵原の作用を亡失せしめ後に壓し潰したる米飯を入れて再び火上に熱すると甲乙の兩管の如くにします偖て此三管中何れのものか澱粉質を消化し居らざるやを試驗致します即ち該管の中に初め白色なる此加里滷液と申す藥を入れ次て硫酸銅溶液と云ふ此の緑色のものを加へ御目の前で斯く熱しますれば此の三管の中急度何れか異様を

呈する筈ですが何れでございゐ升即はち夫の飯や麺の粉質が唾液の爲めに形を變へて葡萄糖となるものに於てハ熱せるに從ふて漸々に其緑色が變して赤色となります若し其糖化せざるものに在てハ赤色にならずして單に黑色と見ゆるのみです能く御注目遊ばせ偖て斯く御覧の通り變色して赤くならぬのは丙の一管のみであります此ハ何故でありますかと云ふに急度其混加したる唾液か米杯に逢ふ已前に於て既に唾液の力を煮殺せられて粉質を糖化すると能ハさる樣になりたるからのとであります各位此を御認めになりてハ私が前に申した通り唾液が要用であると申たとか十分に御了解に成りましたろう扨て更に又た試驗法を致し換て最一度唾液の糖化力ありて不潔ならざる尤も必要物たるを證據立てます即ち前の如く三種の液を管中に作りまして今度ハ其管中に沃度なるものを加へます左樣すると斯く御覧の通り甲乙二管の糖化したるものに於てハ藥の色が消褪致します乍去丙の一管のみハ美麗なる藍色を呈しまするど是の如くであります斯樣の試驗ハ決して私が手品を遣ふのではなく皆な化學の道理から出來るとて不思議なるものではありませぬ外にも種々の撿法がありますれども先づ此二法にて既に十分に御分明なされたとと存じて聞きます是れですから唾液ハ食物を濕す用計りでなく食物を消化する力をも兼備するとか譯では有りますまい。

切說既に試驗ヱ徵示せる如くなれは唾液の要用品なるは勿論なり故に殊に胃弱なる人にハ咀嚼して能く唾液を混して嚥み込むが利益多しとす皆樣ハ其原因を十分御了解なされたると思ますれば何卒前に願たる如く柔和と信實とを以て頑老等を十分に御說諭下され又た兒童にも十分御教示あられ度希望致し升

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

殊更兒童の間より胃弱抔を煩ひ居る樣てハ行きません假令學問が出來智恵がありても身躰か弱くてハ活溌に世に處するとが六ヶ敷相成まして恰も巻鉄の切れたる金時計の樣なるもので貴きハ貴きなれども實用に足らず困り入る贅物同樣の結果を爲すに違ひなし斯る厄介もの計り多くなりてハ遂に日本が貧國弱兵と蔑視さるゝに至るも計られず切て之を矯正とするハ各位御婦人の力大に與かる所ろと信じます仍て私ハ本會を無上の鴻益ある集合と存じ喜びの餘り思はず長々と希望を吐露して各位の御退屈を省みざりし尚ほ後日に段々演ずる所あらんと思ひます御迷惑あるや否や。

第二章・姙娠中醫治を要むべき諸症　榊順二郎述

第一。姙娠中他病を發せるときハ速よ醫師の治療を求むべし若し之れを忽にせバ母兒共に非命の死を招くとあり凡て俗人療治禁厭等を頼むと勿れ決て効驗なきのみならず却て大害あるものなり故に妄に信ずべからず

第二。姙娠中屢嘔吐に苦むことあり殊に第二三ヶ月の間に多し劇しきものは之れが爲に飲食すると能はずして身體羸痩し終よ斃るゝに至る故に速に醫療を受くべし

又此嘔氣あるも決して斷食するものに及ばず一日數回に小量づゝ飲食するを良とす若し早朝起床の時に嘔氣を催すものは蓐中に在る儘小量の飲食なして靜かに臥し居ば多くハ自然に治まるものなり

第三。姙婦頭痛に惱むことあるものなれば之れを癒には冷水又は氷を嚢に入れて（嚢は牛肉店等にあり）頭を冷し且つ足部を温湯或は温石にて能く温むべし若し効なければ醫療を乞ふべし

第四。腰痛又は下腹下肢等に痛を發せるときは腰

湯、温石、湯たんぽ等を用ひて暖むるを良とす然れども効能薄きもの故成可くは堪ゆべし若し甚しく痛む時は醫師を招くべし

第五。齒痛も亦た起ることと往々あり此時には芥子又は温飩粉を煉りて紙又は布片に塗りて痛む側の頬に貼り温に爲すべし尙是にて治せざれは治療を乞ふべし

第六。妊婦は動すれば眩暈を起し易く時として卒倒することあり故に起居擧動に注意して成る可く安靜なるべし

第七。心悸を起すことあれども大概は苦悶を覺ふるとなし然れども劇しきときは胸部を冷布又氷囊にて冷すべし若し癒ざれは醫治を受くべし

第八。妊娠の月重るに順て下肢に浮腫を起すものなり其輕きものは殊更治療するに及ばざれども重きものは下紐腰帶等を緩め莫大の股引を用ゆべし又永く佇立すべからず寢るときは仰臥して足部を高くすれば自然浮腫の增ことと少し然れども下腹足部も外陰部も共に浮腫を起して歩行を妨ぐるものは忽せにすべからず此の如き病は下腹の大さ尋常妊娠よりも大なるものにありて第九月目に多く起すものなれども第十月目(臨月なり)に至れば此の浮腫大に減するものあり稀には下肢に靜脈努張症を起して痒を覺え之を掻けば出血して止まり難きが故に決して掻べからず若し甚しきものは醫師を頼むべし又全身に浮腫を起すことあるは尙必ず他の病に因るものなり速に醫療を受くべし

第九　大小便の通じ惡敷時の治療は前に述べたり然れども妊娠の初期又は滿期に起る治療の効なければ醫治を乞ふべし

第十。精神の變常も往々起るものあれども其輕きものは治療を受くるに及ばず唯だ甚しく鬱閉するも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のなれば醫師に依るべし

第十一。全身の皮膚に疹、膿胞等を生じて甚しく化膿するもの又は癤腫、癰疽等を發せば忽にせずして醫療を受くべし

第十二。唾液の分泌甚しき時は明礬を凡そ二百倍の水に溶解して(例へハ明礬一匁を凡そ四合の水に溶す)一日に數回づゝ含嗽すべし之にて治らざれば醫師を頼むべし

第十三。白帯下の輕き者は一日二度位づゝ腰湯を用ひ又は膣内を温湯にて洗ひ清潔に爲すを良しとす若し重き者ハ多くは淋病より起るものなれば速に醫療を受くべし忽にする時は分娩時に至り嬰兒の眼中に此膿汁入りて重き眼病を惹起し遂に盲目となるもの多し嬰兒の膿眼と名くるものにして世上盲目者の半數ハ之より起ると云ふべき程恐しきものなり故に白帯下の多量なるもの殊に夫に淋病あるものは注意して治療を怠るべからず又此病あるものは分娩時に至り必ず忘るゝことなく其由を醫師又は産婆に告げて膣内を清潔に洗ふべし

第十四。乳房腫脹して疼痛甚しきときは新しき綿を充て繃帶(白木綿又フランネルの切片)を乳房の動搖せざる樣に壓定すべし

第十五。腹部の周圍過大なるものは双胎品胎あるか又ハ分娩に臨み陣痛微弱症を起すことあるもの故に豫て産科醫の診察を受くべし通常の姙娠にて第七八月目には腹圍大約曲尺二尺一寸、第九ケ月には三尺二寸第十ケ月には三尺二寸五分となる故に之を比較して大小を知るべし

第十六。姙娠中陰門より下血するものは流産の前兆又は前置胎盤(胞衣の子宮口にあるもの)にして初姙なれば分娩數時間前に起り數々姙める婦人なれば第七八ケ月頃より起るあり放置する時は大患となるを以て速に産科醫を招くべし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

又然しながら姙娠中に毎月經水を見るもの稀にあれども是又診察に依りて判定すべし

第十七。婦人の性質に因りて墮胎の癖ありて完全くある嬰兒を擧げ難き者あり是れハ梅毒ある婦人に多く起るものなれば本人は勿論其父母に梅毒あれば遺傳することあるもの故に此疑あれば決して治療を怠るべからず若し怠るときは假令幸ひにして尋常の月を經て分娩するとも畸形の子を生むか又は嬰兒產後に梅毒症を發し育弱く多くは死する者あり懼るべし

第十八。平常陰部に贅物あるものは難產に罹る事多きものなれ治療を忽せにすべからず故に姙娠前なれば速かに手術を受くべし併し姙娠中なれば流產又は早產を招く事あるが爲め手術の行はれざるものなり

第十九。姙娠第三四ヶ月目に至り腰部に劇痛を發し大小便全く閉止し甚しきは吐糞病(大便を吐出するの症)を起すものあり此の如きものは猶豫せず速に治法を乞ふべし

第二十。姙娠中突然卒倒して人事不省となり或は痙攣を發して癲癇の如き症を起すことあり是れは臨月に近きて起ること多し此病は暫時にして平常に復するが如く見ゆるものなれども全治せるにあらずして必ず再發するが故に之が爲に終に母兒共に死を致す事あり若し一回此症を發せば決して醫療を怠るべからず

○看病法大略(其二)　岡田美壽子述

病室の空氣ハ最も大切な者でありますから余程注意せねばならなゐ者です故に第一空氣流通をよくせねばなりません、しかしながら病人に風があたつては惡ゐ者ですからやたらに戸障子をあけてハなりませ

ん風のない静な時を見合せて新鮮なる空氣を入れるのがよろしうござります、なぜなれば風ハ冷氣な者でありますから病人に障害になります又病室に澤山の人の這入るのは大そう惡ゐ者でありますから看病者二三人の外見舞人などは可成入れぬよふ注意せねばありません若し澤山の人が室内にをりますと大そう空氣のけがれる者であります又窓を開くるにハ下の方をあけおいて上の方を開けて置のがよろしうござります又病室のふすまハ注意して閉て置のがよろしう御座ゐます若開てありますと家中のいろ／＼の事が病人に見へたり聞へたりして惡ゐ者でござります。

病室に新鮮なる空氣を入るにハ先づ病人に「ケットウ」を叮嚀に被ひ夫より掃除をなし然る後戸を開き凡そ六分間程過る後に戸を閉め室内の温度暖まりて六十八度か七十度位に至りし後病人に被ひし「ケットウ」を取除くべし但し此空氣を容るゝには天氣の晴朗たる日に一日に二三回位するのがよろしうございます。

若其室に空氣を容るゝ事能はざる時ハ次の室にて右同樣の仕方にして温度宜敷時に至れバ其隔の戸を開き空氣を病室の方に入れても宜敷者で御座います。

本會錄事

○客月十九日長與衛生局長より本會員を招待し下谷衛生局試驗場參考室拜觀を許され該日參觀者六七十名あり爲めに衛生上諸物の試驗をなし大に感覺を與へられ會員の欣喜何ぞ之に過ん依て爰に記して以て長與君の高意を謝す

○支會開設　本會の支會を千葉に開設し名けて大日本私立婦人衛生會千葉支會と稱し五月十二日を以て開設擧行式を該地高等小學校に於て行ひ當日支會副

會長小林久美子其他高梨光子森理記飛田眞吉岡本錦吉郎本會より荻野吟子太田幾子諸氏の演説あり聽衆者殆と三四百名の多き爲め樓上樓下餘地なきに至りたり實に本會の榮支會の盛欣然措く處を不知就ては該場にて演説されし諸氏より草稿を寄られたれは逐次之れを掲載すべし

○客月本會常集會長與專齋君宇川盛三郎君の演説は次號に掲載する事とはなりぬ此段會員諸君に報す

○育兒の手引　　岡本錦吉郎述ぶ

私しハ近頃御當地へ參りし者にて千葉の事ハ何にも存じません今日此の御會のあることもよう〳〵一時頃承りた位の事で御座ります然し昨今當千葉に於まして此御會の必用なる事を感じましたから訥辨をも厭はず育兒の手引と申す題で御話し致しましよう此の育兒の手引をお話し致す前ナゼ私しが此の如き題を掲げましたかを述べようと存じます

凡そ此世にあるとあらゆる物ハ必ず生死ハ免れざるもので彼の櫻の蕾が將に綻びんとしますと風の來りて散し梅の花の已に開かんとすれバ雪の降りて枯す是れ皆さんの御存知の通りで仕方のない譯合デ御座りますたゞ櫻梅バかりデハなく人に於きましても亦同じことで御座ります少し發明な御兒さんか少し奇麗な御兒さんハドウモ育ち難く病の爲めにトカク無情の花と散されやすく眞にまゝならぬ浮世でありまず彼の櫻や彼の梅の散り枯るゝのでさへ皆さん御歎き遊す處此世に萬物の頭と生れたお兒さんの一朝病のため散り枯さるゝ事などあろうものなれバドンナに悲しい事でありましようかまして之れが親ともなり泣けバ笑へ笑へバ立て立てバ歩めと御育なされた御婦人達の御愁傷ハいかゞでありましよう實に燒野の雉子夜の鶴で御座ります昔しの人の歌に

人の親の心ハ闇にあらねども
子を思ふ道に迷ひぬるかな

眞に名言で世間の御婦人達其お兒さんをなくし御愁傷のつまり氣の狂ひ或ハ病に臥す人ハ多くあります是に由りて之を見ますれバ其お兒さんの健なるハ皆さん御好み遊バす處で其お兒さんの御弱ひのハ御嫌ひなさる事ハきまりきつた事で御座りましよう

サテ其お兒さんの健と不健とは何に由りて來ますかと申すに其お兒さんに尤も長く接し其お兒さんを最も長く御育て遊すお方の健と不健に由て來ますシテ其お兒さんに尤も長く接し其お兒さんを最も長くお育てなさる者は誰人でありましよう御婦人達より外には有りません故私しは斷じてお兒さんの健不健は御婦人達の健不健に由る者と申しますナぜなれバ御婦人達ハお兒さんの卵の時より目鼻口と人の形になるまで己れの胎内に宿し置く者で御婦人達の妊娠前より妊娠中の衛生如何ハ直接に其お兒さんに利害を及ほし妊娠前に御婦人達のからだが弱く病に罹り安きお方なれは妊娠するお兒さんも弱く妊娠しても胚の血行ハお兒さんに通りて居りますから御婦人達の衛生惡しくバ胎内のお兒さんの弱い事は妊娠中にお兒さんの四月や五月で墮胎致す事あるにておわかりでありましよう又分娩后とても其お兒さんの第一の養分となる乳汁は御婦人達の乳房より出づる者でありますから御婦人達の衛生法が惡しくばお兒さんは弱くあります是れは御婦人達少し強き物を召上れバ其お兒さん忽ち乳を吐いたりジレタリ哭たりなさるにて明かに知れましよう夫れ故御婦人達が御注意ありて衛生をバ常々御守り遊せバ其お兒さんハ必ず健康にして才智あるお兒さんを空しくなくし近所隣りの御細君と浮世話に「あの兒が生て居りますれバ幾歳になりますサスレバ私しもコンナ苦勞ハ致しませ

んものに」などと死だお兒さんの年を數へたり奇麗なお兒さんを一生青白顏とし年が年中醫者にかけ藥九層倍に藥價の高りしを歎くとはありますまいサスレバ其親々の御喜びハ申すに及ばず其お兒さんハ后來第二の父母となる人でありますれバ身躰さへ健なれば能く六ケ敷學問にも耐へ一家一國をば起すに至り天下の喜びとなりましようシテ見ますればドウモ御婦人達の衛生はなか〳〵忽にすることは出來ません

私シ一昨年中に東京に於きましてなくなつた御兒さんの數を見ますに百分算としてお歳にわりつけますれば

一才以下	二才以下	五才以下	十才以下	十五才以下	二十才以下	ソノ以上
二六、三〇	三、六三	五、二七	三、三二	二、三五	三、四一	五五、七三

にして此表によりますとお兒さんの無くなつた數は東京で死だ人の殆ど半分でありますが實に多いてはありませんか又我千葉町につきて申さんに私しは當千葉に居ります事がマダ僅で其詳い事を知る事が出來ませんなれどお兒さんの病は隨分多い樣で御座います私しが我縣立千葉病院に於てたゞ內科の外新患者とありて來た人の四月中の統計に由り見まするに次の如き比例を得ました

一才以下	二才以下	五才以下	十才以下	十五才以下	ソノ以上	合計
二〇人	一二人	三三人	三二人	一〇人	二八七人	四一四人
三〇、六八%					六九、三二	一〇〇、〇

之に因て見ますれば四百廿四人の內百二十七人はお兒さんの病でザット患者の三分の一でありまする實にお兒さんの病は少しと申されません斯くお兒さんの病多く健なお兒さんの少きは私しは御氣の毒ながら全く千葉町の御婦人達の衛生が惡しきに因ると申さねばなりません實に殘念ではありませんか斯く婦人衛生の必用なる今日に當りまして我千葉町に婦人

衛生會をばお開らきになる其に何よりの喜びて御座ります定めし是からは皆々様衛生をお守り遊ばされ何れのお兒さんも健かな御方ばかりとなりましよう然し前にも申す花に嵐の譬の如くドンナニ衛生に御注意ありても偶然病氣の起らんとも申されませんから其時の御用意にまで私しれ是から章を分けて育兒の手引をお話し致そうと存じます

（以下次號）

大日本私立衛生會千葉支會開設主旨

衛生の目的は身躰の健康を保ち天壽を全ふするにあることは世人の普く知るところにして我國郷に大日本私立衛生會開設の擧ありしより以來各府縣の下至る所支會の設けあらざるなしと云ふ然るに今又特に婦人衛生會を開設すと云はゝ人或は云はん既設の大日本私立衛生會は男子專有の會にあらず何ぞ此會を措て別に婦人衛生會を新設するの必要あらんや衛生上の事は老若男女貴賤貧富の別を以て其主旨を異にするものにあらず生きとし生けるものゝ樂しみ死を惡くむは人情の然らしむる所なればなり若し強てこれを區別せんとならば貧富老幼また其會を異にせざるを得ざるべしと然れども今回婦人衛生會を開設する主旨は決して然らず熟々我邦今日の有様を見るに學術に技藝に其他百般の事業に於て凡て男女平衡を得ざるのみならず衛生の基本たる衣食住の如きは我々婦人の關する所あれ共曾て其方法利害を講究せざるもの多しされば我々婦人は暫く特別の方便により互に會し日用專務の事よりして漸次其講究を進むるの方法を求めざるを得ざるなり偶々府下有志の貴婦人相謀りて婦人私立衛生會を起し完全なる規則を定め優美なる雜誌を編成して我が千葉地方に報送せられ客月中旬會議を千葉小學校に開き相議して規則二十餘條を創定し以て當地に支會を置き衛生上有識の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

方々を招待して講義演説を請ひ各自親しく衛生法を講究する處とし本月本日を以て開會をなすに至れり幸に本會よりは荻野太田兩令嬢の來臨の榮を得たる是本會のため深く謝する處なり　妾　謬て副　會長の撰に當りたるを以て不肖を顧みず聊か開會の主旨を陳ぶ

明治廿一年五月十二日　千葉副會長小林久美子

夫れ吾人の此世に在るや徒に生活するを以て滿足すべきにあらず若し徒に生活せば禽獸と何ぞ擇ばん其禽獸と異る所以のものは德義智識健康の道を求むるにあるのみ而して健康の事たる德義智識と相須て吾人の幸福快樂を増進するの要具なり今や我邦漸く開明に赴くに隨ひ最も衛生の必要を感ずるに至れり因て爰に妹等同志者相謀り大日本婦人衛生會を設立して倶に衛生上の學術を講せんとす今又愛媛諸君妹等と志を同くし玆に千葉支會を設立して衛生上の學術講究に從事せんとす妹等の歡喜何を以て之に加へん庶希くは自今以後本支互に氣脉を通じ相扶掖して益々衛生上の學術進歩を謀らんことを因て一言を呈して支會の新設を祝すと云爾

明治廿一年五月十二日　本會々員　太田茂子

明治二十一年三月以後入會者

東京府

石崎久子　笹田千代子　土方龜子
神山政子　谷よし子　山岸光子
栢熊榮子　村田さへ子　下村ちと子
小池ふじ子　箕山かう子　奥山かう子
水崎榮子　長與園子　丸橋みつ子
岡山敏子　小鹿島筆子　杉浦○子
辻　里子　相馬陸子　野邊地瀧子
大森八重子　高嶺世緋子　福島ちか子

長野縣

武內池子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

山形縣
小野延子　生知のぶ子　山宮花子
福岡縣
石黒節子　本部千代子　澤いそ子
山本須摩子　市木よしく子
秋田縣
田村なか子　平川ぬい子　平川利惠子
青森縣
竹内いか子　森谷政子
三重縣
土井登子

男子賛成員

東京府
宇川盛三郎君　佃與五郎君　木寺安敦君
福岡縣
高木友枝君　高桑實君　津田宗太郎君
大坂府
岡澤貞一郎君
茨城縣
池田常次郎君
宮城縣
筒井信廣君

○本會へ寄附物品

東京府
金五圓貳拾錢　南部隈子
金三圓四拾五錢　細川靜子
金壹圓　岡田美壽子
金六圓五拾錢　村岡久野子
金壹圓　川目仙子
金壹圓　加藤鈴子
金貳拾錢　新居民子
金貳拾錢　湯川勝子
金三拾錢　古瀬民子
金壹圓　狹野吟子
金壹圓　北古賀勝子
金壹圓　多々羅豊子
金壹圓　兩角照子
金貳圓　太田幾子
芝區慈惠醫院
金貳圓　看護婦中

金壹圓五拾錢　小倉竹代子
　　　　　　　中島仙子
　　　　　　　兒玉小春子
　　　　　　　山田逸子
　　　　　　　八木政子
金貳拾錢　長谷川なか子
金參圓　金井元子
金壹圓　設樂園子
金五拾圓　石崎政道
金三圓　金井竹子
金壹圓　木寺安敦
金壹圓　大野松齋
金壹圓　平井琴子

廣嶋縣

金壹圓　馬渡玉子

山梨縣

金壹圓　堀口清子

淡線記音學獨習全記　一部　大日本顯道學會
青森縣管内虎列拉病流行記事　青森縣廳衛生課
衛生會雑誌　愛知縣衛生會

私立大日本婦人衛生會規則（改正）

第一條　凡本會の目的ハ汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり

第二條　本會ハ私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置く

第三條　本會の會員たらんと欲する向ハ身分の尊卑を問ハず何人にても入會するとを得

第四條　會員たらんと欲する向ハ族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込ある可し

第五條　但事務所ハ京橋區日吉町八番地に之を置く

入會後轉居する向ハ速に事務所に通知ある可し尤死去の節ハ親戚知友等より通知ある可し

第六條　本會々員ハ分て終身會員通常會員の二類とし共に會費金を納むるものとす

但終身會員ハ一時に金拾圓以上を納め通常會員ハ一年金壹圓貳拾錢（三月九月の兩度に金六拾錢）宛を納むるものとす尤も會員中書生及其他事故ありて定額を納め難きものハ唯雜誌料として每月金五錢を納めしむ

第七條　男子にして本會の主義を贊成の向ハ之を贊成員とす尤も會費金ハ本會員に同し

但本會に功勞ある向ハ役員の協議を以て終身贊成會員（無會費）とするとある可し

第八條　本會に左の役員を置く

會長一名　副會長一名　幹事五名　書記若干名

第九條　會長副會長及幹事ハ會員の投票を以て之を互撰し書記ハ幹事の推撰により會長之を命ず

但書記ハ都合により會員外の婦人又ハ男子に托するとあるべし

第十條　會長ハ本會を總理し副會長ハ會長を補佐し又ハ其代理をなし幹事ハ會長の命を受けて會務を處理し書記ハ上役の命に從て諸記錄及雜務を掌る

但幹事の分課を設けて　第一會計　第二編輯出版　第三庶務とす

第十一條　會長の見込を以て右役員外に會員中より臨時に指名委員を置くことあるべし

第十二條　會長副會長及幹事の任期ハ一年とす尤も再撰するも妨なし

第十三條　會長副會長及幹事ハ無給料とし書記ハ相當の報酬を給す

第十四條　本會の集會ハ七月八月を除くの外每月一回とし通常第一土曜日午後一時より之を開く

第十五條　每會學士を聘し講義演説を囑し本會々員の演説と共に之を筆記して本會雜誌に揭載し四季各一冊つゝ無代價にて之を會員に頒付するものとす

但し演説の間に談話を交ゆることあるべし

第十六條　會員ハ家族の婦女子又ハ知己の婦人を本會々塲に誘致して傍聽せしむることを得

第十七條　講義演説の際男子の傍聽を禁ず

但會員に緣故ある男子ハ此限りに非ず

第十八條　本會の所有金ハ本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす

但些少の金額ハ日々の費用支出の爲事務所に引出置を得

第十九條　會計の收支ハ總て會計課幹事の撿印を要す

第二十條　會員又ハ會員外より金圓若くハ書籍物品等を寄贈あるときハ本會より謝狀を送り且寄贈の品目及其人の姓名を本會雜誌に載せ報告するものとす

第廿一條　會費ハ郵便小爲替にて東京芝口郵便局へ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

向け振出しある可し
但不得止場合には郵便券（一錢券に限る）を代用するも妨けなし尤一割增とす

第廿二條　入會員には會員證を附與すべきに付郵便にて申込の向は郵便券二錢を添ふ可し

第廿三條　毎年三月九月の集會に於て會計の收支庶務の概畧幷に會員の增減等を報告す可し且規則改正の案あらば之を報告するものとす尤議定は總て多數決とし可否半數なるときは會長之を決す
但至急規則の改正を要する事あるときは預め會員に報して臨時に之を爲すことを得

第廿四條　毎年九月の集會に於て役員の撰擧をなすものとす

第廿五條　規則の範圍内に於て役員の評議を以て其細則を設くることを得

第廿六條　各地方にて發起者十人以上ある者は支會を設くることを得
但其規則は本會の規則に抵觸せざる樣起草し本會役員の認可を經べし

第廿七條　本會の集會場は時々報知する者とす

第廿八條　會費金内受領證を付與すべし尤小爲替又は郵便券にて納むる者は右受領證遞送費として郵券二錢を添ふべし然らざれば受領證は送付せざるものとす

第廿九條　退會せんとする向は會員證を添へて其旨事務所へ報知あるべし

東京京橋區日吉町八番地
明治二十一年四月改　私立大日本婦人衛生會

〇グラム匁くらべかき

日本の目方にて	ふらんすの目方
〇毛二六六は	一ミリグラムあり
二毛六六は	一センチグラムあり
二厘六毛六は	一デチグラムあり
二分六厘六毛は	一グラムあり
二匁六分六厘は	一デカグラムあり
二十六匁六分は	一ヘクトグラムあり
二百六十六匁は	一キログラムあり
一厘は	三十七ミリグラム余あり
一分は	三百七十五ミリグラムあり
一匁は	三グラム七六あり

〇グラム匁くらべかき　本會雜誌には成丈日本の目方を用ひますれど講師演舌の事柄に因り外國の目方を用ゆることもあれば表紙へグラム匁くらべかきを掲載致し置きますれば皆樣方にも御覺おきあれ一寸申おきます

〇番地記
赤十字社病院　麴町區飯田町
東京慈惠醫院　芝區愛宕町二丁目八番地
順天堂病院　本鄉區湯島五丁目十番地
山龍堂病院　神田區小川町四十番地

大日本私立衛生會事務所　東京日吉町八番地女學雜誌社内
本會雜誌編纂委員　荻野ぎん子　鈴木まつ子

發行所　東京日吉町八番地　大日本私立婦人衛生會
編輯兼發行　東京京橋區日吉町八番地　巖本善次
印刷　東京下谷區仲徒町三丁目七十一番地　森田撰